

---

# 文化戦争論

TK-M型

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

文化戦争論

### 【Nコード】

N2485E

### 【作者名】

TK-M型

### 【あらすじ】

戦争はなくならない。なんで？って思ってた時期にふと思いついてしまった話。

## (前書き)

パラサイトフリートを書くときにメインに考えてしまった思いを垂れ流してしまったエッセイです。ストーリーとはまったく関係ありません。体に毒です。前向きな方、自主性の高い方にはお勧めしません。

## 序 壊れた時計

人類の文化は自然界の淘汰から逃れるために生み出された外部補強機構であると、誰かが言った。

自然界において決して頂点を得ることの出来ないはずであった生物は、生物でない共生のパートナーによっていかなる外敵からも己が身を守るようになった。人類は何物をも貫く矛、繰り返し外敵に立ちふさがる盾を手にしたかに思えた。

人類はそのとき気づいただろうか。彼らが手にしたものが、イブを唆した蛇の一面を持っていたことを。

大地のいたる所で、それらは産み落とされた。しかしそれらは、自分以外のモノが人間の守り手（支配者とも言える）になることを容認しようとしなかったのだ。

そうして文化は暴走を始めた。

人類という動物以上に、文化は貪欲だった。

彼等は人類の本能を、恐怖を喰らい、欲を生み出した。

欲は本能より力強く、甘美で、恐怖を押さえ込んでくれた。

しかしそれは自然界以上に傲慢で、狡猾で、残酷だった。

この日より、人類は文化に食われたと、誰かは言った。

新たに生まれた彼等はある日、地球上のどこかで出会った。自分たちと同じ存在に。誰が最初に始めたかは分からない。

誰も知らない一時から、怪物の戦いは始まった。

闇の中に、いつからか音があった。途切れ途切れに、決して止まらない音。

それは時計。誰が作ったかもわからない、連続した時間を示す機構。

時計が刻むのは歴史、文化が発明した自らの足跡を残す靴である。

時計の歩みは誰の意思にも寄らず、厳格に冷酷に進んでいくはず

だった。

しかし、あるとき時計は壊れた。誰にも気づかれることも無く、ましてやその文字盤の上で踊る人類は時計の存在にすら気づくことは無かったが…。

しかし時計はその歩みを止めなかった。寧ろその歩みは速く、急ぎ足に、どんどん早くなっていく。

人は、時計の針が足を止める一瞬、平和と言う安らぎを手にすることが出来る。

だが壊れた時計はそれを許さない。しかも文化は加速した時間の流れの中で更なる肥大化を続けた。

人間を疲れさせず、休ませず、何より、戦いに飽きさせない。文化の庇護は完璧だった。人間は闘い続けた。そして振るう矛と盾は強大になっていった。人はそれを振るい続け、己が身も武器となっていく。

文字盤の上では、既にその戦いを乗せる舞台としては小さくなりつつあった…。

(後書き)

本来パラサイトフリートの序文だったはずが、自分でも呼んでいて気分が悪いので隔離しました。最後まで読んでくれる方、ありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2485e/>

---

文化戦争論

2010年11月14日09時20分発行